

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する社会科授業

上越教育大学教職大学院准教授 榎原範久

Q.1 学校教育において、授業改善の必要性が言われているのはなぜですか？

A やはり社会構造の変化が理由です。社会の変化はますます激しくなり、知識基盤社会の進展、グローバル化、情報化社会など社会構造が変化しました。そして超スマート社会と言われるSociety5.0時代が到来しつつあります。社会構造が変化するという事は、求められる人材の資質・能力は変化します。それにとまっ

て、未来の人材育成を担う学校教育に変化が期待され、授業改善が求められているのはこのような背景があるからです。本年度は、新しい中学校学習指導要領の全面实施と、GIGAスクール構想の実施となりました。先生たちにとっては、順応するだけでも大変ですが、授業改善の大きな機会と捉えたいです。

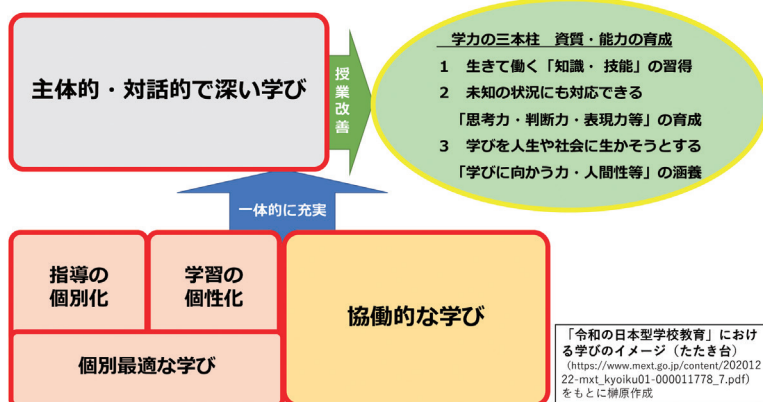
Q.2 社会科は、どのように変化していくべきでしょうか？

A 他の教科と同様に授業改善が求められています。とりわけ社会科では、教師主導の知識理解の教示を中心とした一斉講義型授業の課題が指摘されています。インターネットが発達した現代では、知識は即時的かつ容易に得ることができるようになりました。そうになると知識を豊富に蓄積することだけでは不十分です。得た知識を活用し、問題解決に繋げ、新しい価値を創造

する社会科が求められます。言い過ぎかもしれませんが、暗記科目と言われてしまうような知識理解を中心とした科目であり続けるのであれば、教科としての存在意義すら危ういかもかもしれません。社会的な見方・考え方を働かせ、公民としての資質・能力の基礎を育成するために、授業改善のキーワードとして「個別最適な学び」と「協働的な学び」が示されています。

Q.3 「個別最適な学び」と「協働的な学び」が必要とされるのは、なぜですか？

A 文部科学省は、目指すべき「令和の日本型学校教育」の姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」としています。学校には多様な子どもがいます。全ての子どもが尊重され、特性や学習進度、学習到達度等に応じて、適切な指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの指導の個別化によって「個別最適な学び」の実現が求められます。また、個別最適な学びが孤立した学びにならないよう、子ども同士の「協働的な学び」を生み出すことが大切です。私たちが一人で行うことには限りがあります。現代は変化の激しい時代であり、答えのない問題に直面することが多くあります。決して一人で乗り越えていくことはできません。



義務教育段階から協働して取り組み、問題解決していくことの価値とその有効性を理解することが大切です。そして誰一人取り残されることのない社会の実現へと繋がります。ICTや高速ネットワークが普及しても、人が集まって学ぶ学校の存在意義となります。

Q.4 研究ノートを活用して「個別最適な学び」や「協働的な学び」を実現するには、どうしたらよいですか？

A 新しい学習指導要領を盛り込み、個別最適な学びと協働的な学びを実現するため全面リニューアルされたのが今回の「研究ノート」です。「研究ノート」の左ページの問題編は全ての生徒が取り組みやすい構成・内容になっています。実際の教科書の紙面と比べると分かりやすいですが、教科書の資料を引用して問題が

作られているので、問題集に取り組みと自然と教科書を読み取れる仕組みになっています。自学自習の場面でも教科書が手元があれば誰でも解答にたどり着くことができます。また、協働的な学びについては「A・Lワークシート」の活用がおすすめです。

Q.5 「A・Lワークシート」を、どのように活用すれば協働的な学びが実現できるのでしょうか？

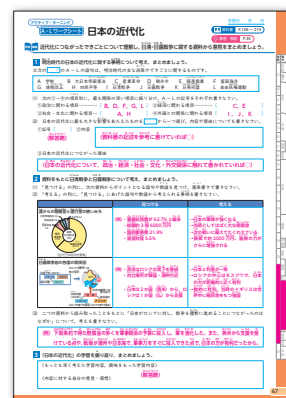
A 「協働的な学び」を実現する上でヴィゴツキーの「発達の最近接領域」の理論が参考になります。学校の子どもに当てはめると、「自分一人の能力ではできないけれど、先生の支援や友達と協力すればできること」となります。この難易度に絶妙にアプローチした学習教材、学習課題を教師が準備することが必要です。一人でできる程度の課題をいくら用意しても子どもたちは協働しようとせず、個業で済ませます。協働しなければ乗り越えられない学習教材と学習課題の設定がポイントです。

その点で、「A・Lワークシート」は難易度が若干高めに設定されています。また学習課題の欄は空欄になっており、教師が学級の状況を見取り、協働的な学びが発生するような課題づくりを自由にできるようになっています。本誌には単元末に「A・Lワークシート」が掲載されています。さらに教師用の付録教材に全頁の「A・Lワークシート」が収録されていて、毎時間の使用も可能です。直接使用しなくても、協働的な学びの授業づくりの参考になります。

Q.6 「A・Lワークシート」の授業での活用イメージを教えてください。

A 例えば、2年生3学期の歴史単元「日本の近代化」を例に話をします。単元末の教材で、1問目に明治時代の主要な政策や出来事のまとめがあります。学習内容を振り返るだけでなく、どの政策が日本の近代化に最も大きな影響を与えたかについて価値判断する問題があります。協働的な学習を通して仲間と習得した知識を振り返り、政策の価値について理由を話し合います。2問目は、資料の読み取りをスモールステップで行う練習問題。これは個人での作業が可能です。その次に2つの

資料から読み取ったことをもとに学習問題に対する解答をします。資料の読み取りからデータの根拠をもとに意思決定します。withコロナの学校では、対面での学び合いは難しいところもありますので、対話の相手を最小人数に指定したり、ICT上で共同編集や情報共有したりするなど工夫をして協働的な学びを確保する必要があります。



Q.7 実際に授業を受けた子どもたちは、どのような成長を実感したのでしょうか？

A 実際に、このような協働的な学びを中学1年の1年間続けた学級でアンケートをとりました。その結果、9割以上の生徒たちが社会科の授業が楽しかったと回答しました。一方で授業は難しかったかという問いに対しては約半数が難しかったと回答しています。さらに社会科の知識以外で力が身についたかの問いでは9割以上が身についたと答えており、最も多かった回答は「コ

ミュニケーション能力」でした。子どもたち自身も協働的な学びを継続することで自身のコミュニケーション能力の成長を実感することが示されています。子どもたちの、未来で生きる資質・能力の育成を目指して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に授業に取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指してください。



秀学社webサイトからもご覧いただけます。

<https://www.shugakusha.co.jp/>

■秀学社は中学校の社会科教材を発行しております。教材についてご要望がございましたら、弊社HP「お問い合わせフォーム」まで、ぜひお知らせくださいませ。